

## 学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成29年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立不動岡高等学校		Cグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見	
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	外国語科を併置し、スーパーサイエンスハイスクール並びにスーパーグローバルハイスクール事業等を実施する学校として、目指す学校像が設定されている。生徒の実態や学校の現状に応じた適切なものであり、伝統ある進学校として寄せられる期待に応えている。	
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	地域の期待、生徒の学力や進路の実態を踏まえ、重点目標の見直しが行われた。高大接続改革など、学校の置かれた状況を把握し、教職員の意見や要望を反映した中期的な目標としてふさわしいものとなっている。	
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	「学年・分掌・科の方針」が作成されるなど、学年・分掌・学科が連携しながら目標達成を目指す体制が整えられ、重点目標の達成に向けた方策が実施されている。中期的な目標・計画の観点から、年度ごとの方策を具体的に設定するように工夫していただきたい。	
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	評価運営委員会が中心となって方策を策定し、課題の解決のために取り組んでいる。評価指標については、方策の達成状況を適切に評価するものとなるよう、取組指標と成果指標をうまく組み合わせて、教職員間で目標の達成イメージが共有できるようなものを設定することが望まれる。	
	校長的的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	評価運営委員会・企画委員会、職員会議等において、校長が学校の課題等に関する教職員の共通理解を図っている。校長が的確にリーダーシップを発揮し、分掌・学年・教科などが全体の目標を理解した上で、適切に連携して取り組んでいる。	
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	アンケートなどを実施し、学校自己評価のための情報が収集されている。保護者アンケートや生徒学習状況調査の結果等を多角的に分析して達成状況や課題を明確化し、それらをどのように受け止め、目標や方策等を変えようとするのかをよく検討して、次年度の具体的な取組につなげるようにしていただきたい。	
特記事項			